

路上喫煙・ポイ捨てのないきれいなまちへ

矢野ゆたか市長が「環境美化条例」を提案、日本共産党が賛成討論



12月22日に開かれた市議会本会議で、矢野市長が提案した環境美化条例が、自民、民主、生活・社民、無党派（辻村議員）の11人の反対で否決されました。賛成は共産、公明の10人。同条例は、来年4月から市全域でポイ捨てを禁止し、路上喫煙については駅周辺では禁止、他の地域では路上喫煙しないよう努力を求めるものです。

自民、民主、生活・社民が反対し否決

日本共産党は鈴木えつお議員が主要次のような賛成討論を行いました。

本条例案は、建設環境委員会が一致して市側に条例制定を求め、市が策定委員会を設置して検討し、市民説明会やパブリックコメントを経て提案されたものです。

市が実施した実態調査やアンケート調査で、路上や公園等で、たばこの吸い殻や空き缶などのポイ捨てが目立ち、条例等によりポイ捨て禁止の罰則を設けることやパトロール隊により指導するなどの声が多く出されています。

非喫煙者の8割が条例制定を求める

また路上喫煙についても、公共の場所での喫煙に迷惑しているという人が全体の60%、非喫煙者では66%に上りました。その内容は、煙やにおいでは、不快な思いをしたという声と、ポイ

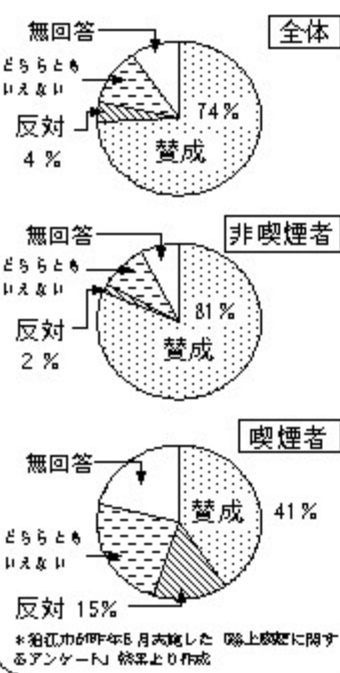
捨てられた吸い殻が見苦しいという声が圧倒的ですが、やけどを負わされたとか、たばこの火の不始末によるぼやがあつたなど、大きな事故につながる回答も多く出されています。また「子どもの顔の高さにたばこがあり、危険を感じた」「子どもにぜんそくの原因があり、路上の煙で咳が誘発される」という声も寄せられました。

健康被害の防止も大切

一方、条例案に対しては、喫煙者に一定の規制を課すことから、さまざまな意見があるのも事実です。

その中で私たちは、喫煙をめぐむ状況の変化を重視しました。たばこの規制に関する

路上喫煙禁止条例の制定について



子ども達に豊かな放課後生活を 駒井学童保育所 (六小内) 和泉放課後クラブ (和泉小内) 開設へ

第4回定例会で学童保育所（50名定員）を開設するための条例改正案が可決されました。

これは、猪方3丁目にある猪方前原学童保育所が地主さんの都合で移転することになり、駒井町の六小敷地内に新たに駒井学童保育所（50名定員）を開設するものです。

子ども達の放課後生活を支援するとりくみです。

またあわせて、和泉の和泉小学生クラブがこ数年定員オーバー状態が続いているため、それを解消するため、近くにある和泉小学校内に新たに放課後クラブ（50名定員）を開設するものです。



無料法律生活相談

- 毎月第1火曜日…午後1時～4時
- 市役所3階 日本共産党市議団控え室
- *市議・弁護士が相談をお受けします。お気軽にご連絡ください。
- *お申し込みは3430-1177(回控室)または各市議へ



「子ども・子育て新システム」の撤回を求める

市議会が意見書採択

12月22日の本会議で、日本共産党提案の「子ども・子育て新システム」の撤回を求める意見書が、共産、自民、公明の賛成多数で採択されました。反対は民主、生活、無

党派（辻村議員）。社民は棄権しました。

意見書は、新システムの導入は、長い歴史の中で培われてきた福祉としての保育制度の根幹が崩壊し、保育料が応能負担から応益負担への変更で保護者の負担増になり、子

世界保健機関（WHO）枠組み条約では、たばこの煙にさらされることで死亡や疾病、障害を引き起こすことが「科学的証拠により明白に証明されている」と述べ、締約国に対して、人々がたばこの煙にさらされることからの保護を求めています。そしてこの条約を批准した日本政府は、健康増進法を制定し、地方自治体に対して受動喫煙防止のための努力を求めています。

たばこ1本の煙には約50種類の発がん物質が含まれており、その量は主流煙より副流煙のほうが数倍から数十倍も多く、受動喫煙による健康被害は深刻なものがあつて、狛江市がこれまで以上に、きれいな町、健康を大切にすること、大きく発展するよう期待をいたします。

育て環境を悪化させる危険があると指摘し、①「今年度中の法案提出」との方針を撤回すること、②保育制度のあり方について保護者、保育現場等の意見を十分尊重し慎重に検討することなどを求めています。